

令和2年度第2回東北森林管理局林野公共事業事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 令和3年2月4日 10時00分～12時00分

2 開催場所 東北森林管理局 4階第3会議室

3 出席者

(1)技術検討会

会長 高 田 克 彦

委員 菊 池 俊 一

委員 梶 本 卓 也

(2)当局出席者(検討委員会委員等)

森林整備部長

計画保全部長

企画調整課長

計画課長

森林整備課長

森林整備課課長補佐(説明員)

企画調整課監査官(事務局)

企画調整課監査係長(〃)

4 議事概要

事前評価(森林整備事業)

:東 青 森 林 計 画 区 青森森林管理署

:北上川上流森林計画区 盛岡森林管理署

:宮城南部森林計画区 仙台森林管理署

:子吉川森林計画区 由利森林管理署

【質疑応答】

委 員:植栽型複層林とは何か。

当 局:例えば施業群がスギ・カラマツであれば伐採後にスギ・カラマツを植える単相林施業となるが、そういった箇所から人工植栽による複層林へ誘導していく施業となる。

委 員:植栽型複層林については作業種の中の複層林造成に含まれるのか。

- 当 局:含まれている。
- 委 員:そうなった場合、生物多様性の保全に配慮した森林整備を行うことになっているが、単相林施業に比べると、複層林施業の事業量が少ないのではないか。
- 当 局:天然下種Ⅰ類については、費用を伴う更新となっており、天然力を活用した複層林造成については今回の評価には含まれていない。実際には費用の伴わない天然更新により、もっと多くの複層林造成が行われている。
- 委 員:実際には生物多様性の保全に配慮した森林整備が行われていることは理解できたが、今回の資料ではそれが示されていないため、実施されていることがわかるようにした方が良いのではないか。
- 委 員:今後、新たな取組等を進めていく事業計画を立てているが、前計画と比較して、例えば単相林造成がメインだった計画に対して、複層林造成がこれだけ増えたとか、そういったことがわかる資料(参考データ)を提示していただきたい。また、一貫作業の割合・実施率についてもわかる資料が欲しい。
- 当 局:了解した。
- 委 員:東青森林計画区でニホンジカ等の鳥獣被害対策に関する取組を実施することが記載されているが、近隣地域で松枯れ・ナラ枯れが発生していることから、それに係る対策等についても記載した方が良いのではないか。
- 当 局:了解した。
- 委 員:齢級別人工林面積の資料について、各森林計画区で樹種構成が違うため、樹種別の齢級構成の資料も追加していただきたい。
- 当 局:了解した。
- 委 員:各森林計画区の路網整備について、前計画と比較すると達成率(進捗率)が低い。今回の新設・改良の計画は、前計画で作設できなかった林道も含まれているのか。

【機密性2情報】

【事業評価担当者限り】

当 局:前期の計画で作設できなかった林道と、新規の林道も含めて計画されている。

【技術検討会の意見取りまとめ】

会 長:これまでの議論を踏まえ、本技術検討会の意見を取りまとめた結果、『森林整備を行うことにより、公益的機能の発揮と木材生産等を通じた地域振興への寄与が期待されることから、事業実施の必要性が認められる。』とする。